

カリキュラム見直しのポイント

(1) 告示・標準カリキュラムの見直し (獲得目標、学習内容、時間数)

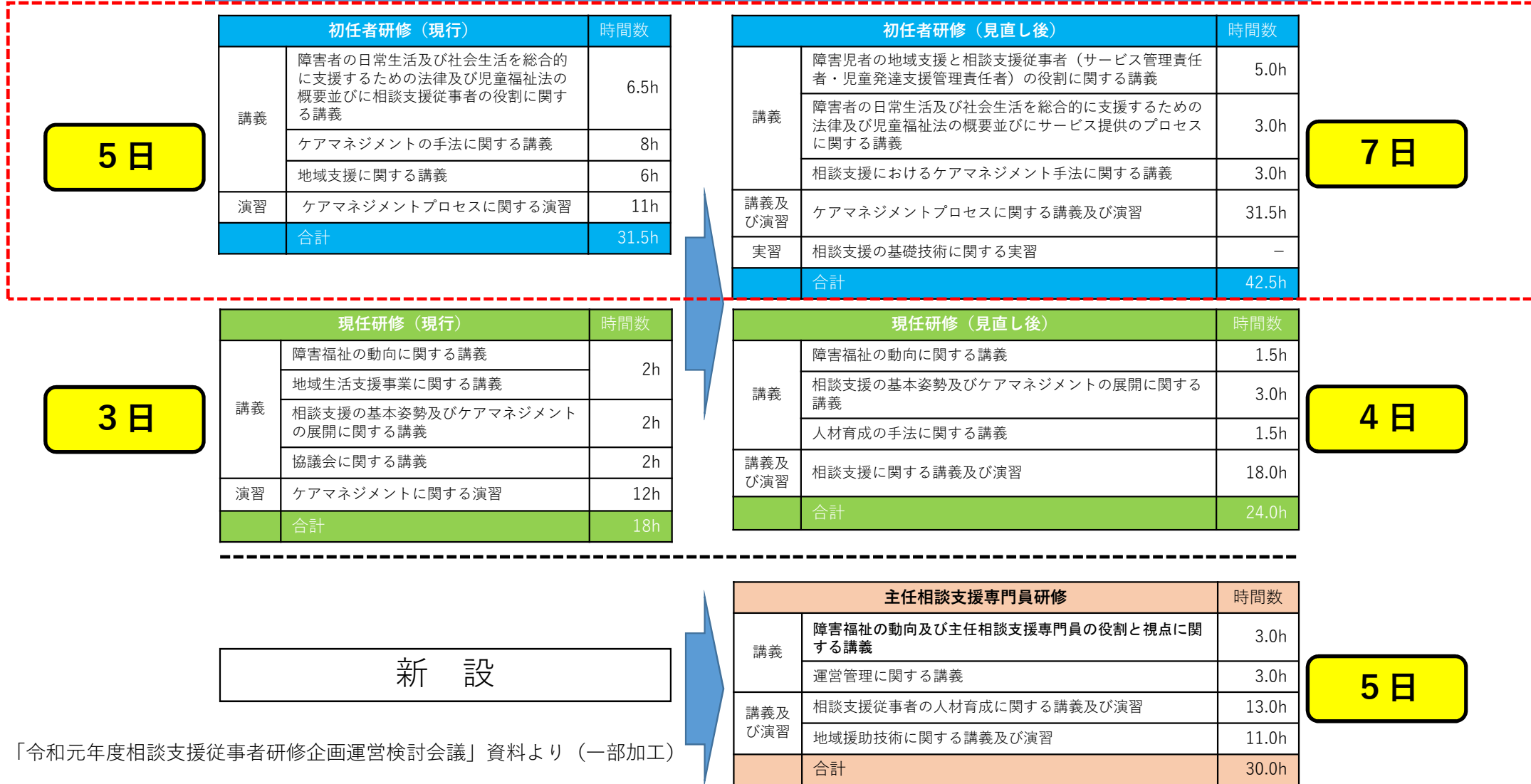
(2) 教育方法の見直し 厚生労働科学研究・障害者総合福祉推進事業の成果

- ・主体的かつ参加型の学習方法への転換(学習観の転換)
 - ・演習や実習のさらなる重視
 - ・オープンエンドアプローチの視点の導入 cf. 実践場面との整合性
- ・研修全体の連動性の重視
- ・継続的な学びの必要性の強調
 - ・研修における実習の導入(初任)や推奨(現任)
 - ・実地教育(OJT)との連動の導入
 - ・スーパービジョンや合議の場の体験等を導入(初任・現任)
 - ・自己評価等の導入を推奨(初任・現任)

→ 都道府県における企画立案方法の見直し

- ・検討体制、研修体系、教材開発、講師選定・確保、地域との連動など

新カリキュラムの告示別表



「令和元年度相談支援従事者研修企画運営検討会議」資料より（一部加工）